

# 『Mind Charging』

第 155 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 11 月 17 日

## 手塚治虫の名言



40 年間負けん気でもってたみたいなもんです。  
逆に言うと、劣等感や怯えがあったから、  
続いたともいえるんですね。

数々のベストセラーを世に打ち出してきた手塚治虫さんのような方でさえ劣等感や怯えに襲われていたのだと思うと、ホッとすべきなのか危機感をさらに募らせるべきなのか迷ってしまいます。ただ、劣等感などの『マイナスの感情』を上手にコントロールすることによって結果的にはプラスに転じることに繋がるのかもしれないという『希望』を持つことができました。

ポジティブ思考を心がけることは非常に大切だと思います。しかし、どんなことにも注意すべき点というものはあると私は思っています。それは『〇〇過ぎること』です。ポジティブ過ぎてしまうことによって注意すべき点は、『過信(甘え)』に変わってしまわないことだと思います。例えば、“今まで通りやれば大丈夫だから”と、準備を怠ってしまうことや、“あの人は許してくれる”と、配慮に欠けた自我を通してしまうことなどが挙げられます。ネガティブまではいかなくとも正しい状況判断・選択・実行ができるように感情をコントロールすることが何より重要だということですね。(編集委員：入試広報室 鈴木)

大阪帝国大学附属医学専門部在学中の 1946 年 1 月 1 日に 4 コマ漫画『マアチャンの日記帳』(『少国民新聞』連載)で漫画家としてデビュー。1947 年、酒井七馬原案の描き下ろし単行本『新寶島』がベストセラーとなり、大阪に赤本ブームを引き起こす。1950 年より漫画雑誌に登場、『鉄腕アトム』『ジャングル大帝』『リボンの騎士』といったヒット作を次々と手がけた。1963 年、自作をもとに日本初となる 30 分枠のテレビアニメシリーズ『鉄腕アトム』を制作、現代につながる日本のテレビアニメ制作に多大な影響を及ぼした。1970 年代には『ブラック・ジャック』『三つ目がとおる』『ブッダ』などのヒット作を発表。また晩年にも『火の鳥』『陽だまりの樹』『アドルフに告ぐ』など青年漫画においても傑作を生み出す。デビューから 1989 年の死去まで第一線で作品を発表し続け、存命中から「マンガの神様」と評された。藤子不二雄(藤子・F・不二雄、藤子不二雄 A)、石ノ森章太郎、赤塚不二夫、横山光輝、水野英子、矢代まさこ、萩尾望都などをはじめ数多くの人間が手塚に影響を受け、接触し漫画家を志した。(Wikipedia 参照)